

アフガニスタン東部における干魃の実態とペシャワール会の対策

二〇〇〇年六月段階でWHO世界保健機関）は、アフガニスタンから中央アジア全域で未曾有の大干魃に注意を喚起し、六千万人が被災と発表した。中でもアフガニスタンが最悪で、既に遊牧民が全滅し、一二〇〇万人が被災、四〇〇万人が飢餓線上にあると伝えた。しかし、タリバン軍事政権との外交ルートがないため、救援は絶対的に不足。WHP（世界食糧計画）によれば、小麦二〇〇万トンが不足。国際社会の反応は一般に無関心か冷淡だが、武器援助だけは衰えていない。

わがPMS（ペシャワール会医療サービス）病院でも、アフガニスタン東部の診療所で赤痢が大流行、飲料水の欠乏が深刻なことを知り、飲料水確保のため行動を起こした。必要とあらばアフガニスタン東部一帯に全面展開する。

東部アフガニスタンの干魃状況

二〇〇〇年八月十四日から同二十二日まで、東部の主要地域をめぐる、WHOやWFPの情報収集のため、被害状況を見し、以下の認識を得た。

1. 東部全域で今秋の収穫は望めない。ごく一部を除いて食糧生産は皆無に近い。問題は既に飲料水確保⇨流民化防止の段階である。
 2. 東部では、ニングラハル州のダラエ・ヌール、ソルフロッド郡が最も甚だしい。特にソルフロッド郡は、州で最も人口が多く、広大である。数万所帯（約四〇万人）全てが飲料水欠乏に悩まされている。数時間かけて水を運んでいる村もある。数は未確認だが、廃村も散見される。いずれも、この七月、八月に村民が去ったものである。
- 同様の実態は、隣接する群の一部にもある。
3. ソルフロッド郡では、西欧系の団体が活動しているが、いずれも小規模、焼け石に水。現在、平均五〇―八〇家族以上が一つの水源に頼り、その水源さえ、日に日に水位が下がり、枯渇するのは時間の問題である。

4. シエイワ郡上流のダラエ・ヌール渓谷（人口約四万）では、既にペシャワール会が七月初旬から対策を立て、八月三日現在、井戸や小カレーズなど、十四ヶ所で飲料水源の確保に成功。住民離散の危機をかるうじて免れている。ただ、現在PMS診療所をはさんでタリバン政権とマスード派が対峙、前線が上下して散発的な戦闘があり、作業が難航している。



今後とるべき対策

1. 最も困難な地域であるソルフロット郡とダラエ・ヌール渓谷に主な努力を集中する。
2. 十一月までを緊急期間とし、ソルフロットに三五〇、ダラエ・ヌールに三〇の水源を確保。短気大量を方針とし、同地域の流民化を防ぐ。必要なら、隣接地域にも活動を展開する。十二月以降は維持や修復を中心とし、全活動を一年以内に切り上げる。
3. 飲料水源確保は以下の方法をとるが、山岳部が凍結する冬季には更に水位が下がることを想定、排水ポンプを使って十分な深さを取る。(水位一〇メートル以上)
① 既存井戸の再生、② 手掘り新井戸、③ 機械ボーリング、④ カレーズ修復(ダラエ・ヌールに限定)
現在のところ、涸れ井戸の再生が最も速やかで確実だと判断される。機械ボーリングが手間と費用が掛るが、一部では使わざるを得ない。

6. 十二月以降は「維持期」とし、流民化・難民化の状態、予想される政治変動、各国救援団体の動きが明らかになると思える。チーム数を減じ、急場に仕上げた井戸の維持管理、補修、ポンプの設置などに重きを置く。
7. 不孝にして今冬の積雪が少なく、春季に水位が上がらなければ、農業が壊滅して無人地帯が増える可能性がある。この場合は、さらに限定した地域での活動となる。
8. 遅れて多数の外国NGOが押しかけ、類似の活動が増えるときは、ダラエ・ヌールを除いて六ヶ月で全計画を引き上げる。

